

# 北朝鮮による拉致問題

(所要時間 20～50分)

## 1 研修のポイント

- ・ アニメ「めぐみ」を活用し、北朝鮮による拉致問題について理解を深めることができます。
- ・ 本研修セットを全て行う場合は、約50分の研修となりますが、アニメ「めぐみ」短縮版の活用等により、研修時間を短縮するなど、学校の実態に合わせて本研修セットを活用することができます。

## 2 使用する資料

- ・ 北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」(全編25分・短縮版約15分)  
※DVDが都内公立学校全校に配布されているほか、政府インターネットテレビで視聴できます。
- ・ 北朝鮮による日本人拉致問題 一日も早い帰国実現に向けて！  
※拉致問題対策本部webページよりダウンロードすることができます。
- ・ (別添) 北朝鮮による拉致問題に関する指導事例
- ・ 【研修の進め方】北朝鮮による拉致問題

## 3 研修概要

### (1) 本研修セットを全て行う場合

分	研修内容
(30)	○ 研修の目的を聞いた上で、アニメ「めぐみ」を視聴する。
(10)	○ 「北朝鮮による日本人拉致問題 一日も早い帰国実現に向けて！」について、研修担当者が内容等を説明する。
(10)	○ 該当する校種の指導事例を確認するとともに感想を交流し、活動を振り返る。


### (2) 本研修セットを短縮して行う場合

分	研修内容
(15)	○ アニメ「めぐみ」(短縮版)を視聴する。
(5)	○ 該当する校種の指導事例を確認する。

【研修の進め方】

北朝鮮による拉致問題

1 研修の流れ ( ) は短縮して行う場合の時間の目安

分	研修内容	留意点等
5 (0)	○ 研修担当者が説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の目的・必要性を伝える。</li> <li>「2 説明内容(例)」※1を参考とすることができる。</li> </ul>
25 (15)	○ アニメ「めぐみ」を視聴する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>めぐみさんの父である横田滋さんが令和2年に亡くなるなど、拉致被害者家族も高齢化しており、一刻も早く解決すべき問題であることを意識できるようにする。</li> </ul>
10 (0)	○ 「北朝鮮による日本人拉致問題 一日も早い帰国実現に向けて！」について、研修担当者が内容等を説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>拉致問題対策本部webページに掲載されている資料を示す。</li> <li>「2 説明内容(例)」※2を参考とすることができる。</li> </ul>
5 (5)	○ 該当する校種の指導事例を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>別添「北朝鮮による拉致問題に関する指導事例」を活用する。</li> <li>アニメ「めぐみ」の中で取り上げられている「北朝鮮の国民を恨んでいるわけではない」という早紀江さんの言葉を取り上げ、拉致は、北朝鮮当局によって行われたものであり、北朝鮮に住む一般市民や在日朝鮮人に対する偏見や差別を助長させないよう配慮する必要性を確認する。</li> </ul>
5 (0)	○ 感想を交流し、活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>3～4人のグループで「理解が深まったこと」や「児童・生徒に指導する際の留意点」について意見交換ができるようにする。</li> <li>拉致問題解決のためには、世論の一層の喚起が不可欠であり、特に若い世代に拉致問題への理解促進を図ることが重要であることを確認する。</li> </ul>
	○ 研修終了後、研修担当者は、右のQRコードからアンケートに回答する。	 <p><a href="https://forms.office.com/r/5YXixXJE48">https://forms.office.com/r/5YXixXJE48</a></p> <p>アニメ「めぐみ」視聴等アンケート (東京都教育委員会)</p>

## 2 説明内容（例）

※1 北朝鮮当局による日本人の拉致問題は、我が国の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題です。現在、政府は 17 名の日本人を拉致被害者として認定しており、そのうち 5 名は、平成 14 年 10 月に帰国が実現しましたが、他の被害者は現在も拉致されたままです。

拉致被害者の方々、拉致の疑いが排除できない特定失踪者といわれるの方々、そして、その御家族は高齢化が進み、その解決は、もはや時間との戦いとなっています。拉致問題を決して風化させないためにも、学校教育においては、児童・生徒の発達の段階等に応じて、拉致問題に対する理解を深めるための取組が必要であり、そのためには、私たち自身が拉致問題について、正しい理解と認識をもつことが重要であると考えます。

本日は、アニメ「めぐみ」の視聴等を通して、人権課題「北朝鮮による拉致問題」について理解を深めましょう。

アニメ「めぐみ」は、昭和 52 年、当時中学 1 年生だった横田めぐみさんが、学校からの帰宅途中に北朝鮮当局により拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や、懸命な救出活動の模様を描いたドキュメンタリー・アニメです。それでは、御覧ください。

※2 「北朝鮮による日本人拉致問題 一日も早い帰国実現に向けて！」の拉致問題 Q & A (p.20) を御覧ください。Q 1 に「拉致問題って何ですか？」とあります。  
(以下、Q 1 から Q 10 までを確認する。)

## 3 その他

本研修セットの一部を行う場合は、演習資料に取り組む時間や意見交換の時間等を短縮することで、20 分程度で研修を行うことができます。

## 11 人権課題「北朝鮮による拉致問題」(小学校 特別の教科 道徳)

### 1 指導事例(第6学年)

(1) 主題名 家族の支え C 家族愛、家庭生活の充実

(2) 教材名

- ・ 北朝鮮による日本人拉致問題(政府 拉致問題対策本部)
- ・ 北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」(政府 拉致問題対策本部)
- ・ 横田早紀江さんの言葉「めぐみ、お母さんがきっと助けてあげる」  
(平成21年5月18日講演記録より)

(3) ねらい

父母、祖父母を敬愛し、家族が相互に深い信頼関係で結ばれていることを考え、家族の一員として家族の幸せを求めて、進んで役に立とうとする態度を育てる。

(4) 主題設定の理由

北朝鮮による日本人の拉致は、国民の生命と安全及び我が国の国家主権を脅かす重大な問題である。拉致被害者が拘束されて北朝鮮に連れ去られ、40年以上捕らわれたままの状態であることは被害者の全ての自由や幸せを奪う重大な人権侵害である。

また、拉致被害者家族は、かけがえのない家族を奪われ、不安と困惑の日々を強いられている。奪われた家族を一刻も早く取り戻そうとすることは、どの家族においても共通する切実な願いである。

このような願いを児童に共感させるとともに、我が子の無事な成長を願い、無私の愛情をもって育ててくれている父母や祖父母などの家族に対し、感謝と敬愛の念を深めることは極めて重要である。

「めぐみ、お母さんがきっと助けてあげる」【資料3】は、家族で幸せに暮らしていた横田さん夫妻が、ある日、当時中学1年生だった長女のめぐみさんを北朝鮮に拉致されて以来、救出のために必死の活動を行っている様子を描いている。

自己の判断や意思で行動しようとし始めるこの時期の児童に、拉致被害者とその家族の思いを考えさせることを通して、自分も家族と深い信頼関係で結ばれていることについて気付かせ、家庭生活の在り方、家族の愛情の普遍性について考えることで、家族の一員としての自覚を深めさせることをねらいとして、本主題を設定した。

(5) 人権教育の視点

拉致被害者、拉致被害者家族の現状を知り、その悲しみや苦しみに共感させることを通して、家族の幸せを求めて進んで役に立とうとする心情や態度を育てる。

(6) 本時の学習指導要領上の位置付けと関連的な指導

- ・ 特別の教科 道徳の内容項目C「家族愛、家庭生活の充実」に位置付く学習である。
- ・ 社会科第6学年「(3)ア(イ)我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。」と関連させることができる。

## (7) 本時の指導

	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	人権教育に関わる留意点等
導入	○ 「北朝鮮による日本人拉致問題 一日も早い帰国実現に向けて!」【資料1】を読み、この問題の概要や背景を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拉致問題は、たくさんの人々の自由や幸せを奪う重大な人権侵害であることを理解させる。</li> <li>・ 社会科歴史の単元で「北朝鮮による拉致問題」に関わる内容を学習したことと関連させることもできる。</li> </ul>
展開	○ アニメ「めぐみ」【資料2】を視聴して、話し合う。 【発問1】めぐみさんが突然いなくなった時、両親はどのような気持ちだったと思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どこに行ってしまったのか。まさか、家出してしまったのだろうか。</li> <li>・ もしかしたら誘拐されたのかも知れない。</li> <li>・ 生きていてほしい。</li> </ul> 【発問2】めぐみさんを救助するために行動し続けている両親はどのような思いだったと思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうか無事でいてくれ。めぐみ、何とかして探し出すぞ。</li> <li>・ 何があっても、我が子の命を救いたい。</li> <li>・ 代われるものなら、代わりたい。</li> </ul> ○ 登場人物を通して実感した家族の深い絆を基にして、自分と家族との関わりについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両親が必死に救助しようとしている姿を見て、自分も同じように両親から大切にされているのだろうと思った。</li> <li>・ 家族との絆は何ものにも代えがたいものだから家族のために役立つことを精一杯やっていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映像の概略を示してから、めぐみさんが突然いなくなった場面、めぐみさんを救助しようとする両親が行動する場面を視聴させる。</li> <li>・ 子供を奪われた親の苦しみ、悲しみや拉致被害者家族である横田さん夫妻の気持ちを考えさせる。</li> <li>・ 娘のことを心配し、自分たちを責めながらも、娘を助けようとする両親の姿から、家族の深い絆を理解できるようにする。</li> <li>・ 街頭で救助を呼び掛ける両親の気持ち、マスコミに取り上げられたことに対する両親の気持ちを考えさせる。</li> <li>・ 拉致は、北朝鮮当局によって行われたものであり、北朝鮮に住む一般市民や在日朝鮮人に対する偏見や差別を助長させないよう配慮するため「私たちは、北朝鮮に住む一般市民の人たちを憎んだり恨んだりしてはなりません。」という早紀江さんの言葉を取り上げる。</li> <li>・ 我が子の成長を願い、惜しめない愛情をもって育ててくれる家族の思いを考えるきっかけとする。</li> </ul>
終末	○ 教師の説話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族との日々の何気ない触れ合いが、実はとても大事なものだということに気付いた。</li> <li>・ 拉致問題を風化させてはいけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子を思う親の心の痛みについて学ぶことで、家族との関わりについての思いを育むようにする。</li> <li>・ 説話として「めぐみ、お母さんがきっと助けてあげる」【資料3】を読み上げる。</li> <li>・ めぐみさんの父である横田滋さんが亡くなるなど、拉致被害者家族も高齢化しており、一刻も早く解決すべき問題であると理解させる。</li> </ul>

※ 本実践事例は令和2年4月23日付閣副428号及び2初児生第2号 参考資料「アニメ『めぐみ』の学校における活用促進について（指導上の参考資料）」より作成した。

## (8) 本時の学習を通じての児童の感想



早紀江さんの「ごめんなさい、まだ助けられなくて」という言葉から、めぐみさんに対する強い思いを感じました。私の力が少しでも役に立つなら力を貸したいと思いました。家族というのはかけがえのない存在なのだ改めて感じました。

## (9) 本時に用いた資料

### 〔資料1〕北朝鮮による日本人拉致問題 一日も早い帰国実現に向けて！

この冊子は、拉致問題の概要や日朝間の主な動き、解決に向けての政府の取組などについて、分かりやすくQ & A方式で書かれている。

北朝鮮による拉致問題に対する拉致問題啓発活動の一つとして拉致問題対策本部により作成され、拉致問題を理解することができる資料である。



政府 拉致問題対策本部 web ページ より作成

### 〔資料2〕北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」(25分)

北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」は、昭和52年、当時中学1年生だった横田めぐみさんが、学校からの帰宅途中に北朝鮮当局により拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や、懸命な救出活動の様を描いた25分のドキュメンタリー・アニメである。

15分の短縮版もあり、それぞれ「政府インターネットテレビ」より視聴することができる。



政府 拉致問題対策本部 web ページ より作成

### 〔資料3〕「めぐみ、お母さんがきっと助けてあげる」

(平成21年5月18日講演記録より)

次の文章は東京都教育委員会主催の講演会で、講師の横田早紀江さんが語った内容を再編集したものである。なお、資料の表題は、横田早紀江さんの著書によるものである。

#### <もし我が子であったら>

拉致問題というのは私たちだけの問題ではないのです。ひょっとして今日、私が、講演を聞いている皆さんのように、そちらの席に座っていたかもしれないのです。そして、今日ここにおいてにならなってしまう方のどなたかお一人、お二人の息子さんかお嬢さんが、たまたまこのような目にあっていたかもしれない。

北朝鮮による拉致問題というように日本が起きていることに、もっと危機感をもって、緊迫感をもっていたらと思います。連れ去られた子かもし我が子であったら、「私は子供のことはあきらめます。とても手を出すことはできません、あきらめます。」とおっしゃるお父様、お母様がお一人でもいらっしゃるのでしょうか。「どんなに我が命を削っても、子供のことがはっきりするまでは戦い抜きます。」と、きっとどなたもおっしゃるのではないのでしょうか。

#### <粗大ゴミの中をかき回して>

めぐみが連れ去られた当時、私たちは「その日めぐみが持っていた、赤いあのスポーツバックはどこへいったのだろう。あのラケットはどこへいったのだろう。」などと、何度街中の粗大ゴミの中をかき回して探したのでしょうか。「あの子の赤いバックがないだろうか。鞆がどこかに置いてないだろうか。」と、何度探し、海岸をどれだけ歩いて泣き叫び、あの子の小さなブローチでも、筆箱でも、どんな物でも落ちていないだろうか、どれだけ長いこと探し回ったことか分かりません。

#### <ごめんなさい、まだ助けられなくて>

めぐみが、今どうなっているのかは分かりません。でも、何とかして探し出さなければなりません。北朝鮮側からめぐみの遺骨が出されて、それがにせものであったということで、私たちは、ああ、本当によかったと思いました。めぐみは、やっぱり生きて頑張っているのだと思っています。北朝鮮から同時に提出されためぐみの持ち物の中からは、生徒証とか、連れて行かれてから半年目ぐらいに写された、白いブラウス姿のめぐみの写真が出てきました。あの写真はめぐみです。あんなに長い年月探していためぐみが、あんなところで、あんな部屋で、知らない北朝鮮の部屋で、悲しそうな目をして、「私は死んでなんかいないよ。お母さん、ここにいるよ。助けてちょうだい、早く来て。」と言っています。悲しい目をしたあの写真には、弟たちももう、本当に思わず嗚咽をしていました。「かわいそう、お姉ちゃんかわいそうだね。どうしてこのようになってしまったのだろう。」と泣いていました。骨は信じられませんけど、写真の人物はめぐみです。「何でそんなところにあなたはいるの。」と、「そんなところにいたの。」と、「ごめんなさい、まだ助けられなくて。」と、思わずめぐみの写真をなでさすって、涙したことでした。



## 2 人権課題「北朝鮮による拉致問題」に関する資料

### 〔資料1〕国際発信ビデオメッセージ「拉致問題解決を求める日本人拉致被害者御家族の声」

このメッセージは、新型コロナウイルスが猛威を振るう中でも北朝鮮による拉致問題解決に向けた国際社会の取組を停滞させないとの決意と共に、日本人拉致被害者御家族の声を届けるものとして、拉致問題対策本部のwebページより視聴できる。



政府 拉致問題対策本部webページ より作成

### 〔資料2〕北朝鮮による日本人拉致問題

政府は、総理大臣を本部長、拉致問題担当大臣、内閣官房長官及び外務大臣を副本部長とし、全ての国務大臣を構成員とする拉致問題対策本部を設置している。

webページでは北朝鮮による拉致問題に対する政府の取組や拉致問題に関するニュースなどが詳しく分かる。他にも冊子のダウンロードや動画コンテンツの視聴もできる。

政府 拉致問題対策本部webページ より作成

### 〔資料3〕必ず取り戻す！ 北朝鮮による日本人拉致問題

このwebページでは、拉致問題が起こった背景や北朝鮮側の主張、日本政府の取組や国際社会による受け止めといった拉致問題に関する基本とともに、問題解決に向けて私たち一人一人ができることを以下のように紹介している。

- ・ 拉致問題はなぜ起きたの？
- ・ 北朝鮮の主張の問題点は？
- ・ 政府は何をしているの？
- ・ 国際社会の受け止めは？
- ・ 私たちにできることは？



内閣府大臣官房政府広報室webページ より作成

### 〔資料4〕東京都における拉致問題

北朝鮮による日本人拉致問題は、平成14年10月に5名の方々の帰国が実現し、平成16年5月と7月にその御家族が帰国して以来、現在まで進展が見られず、膠着状態が続いている。

全国で400人以上と言われている特定失踪者の中には、北朝鮮に拉致された可能性のある方が含まれており、東京都関連でも、少なくとも46名の方々が失踪している。

拉致被害者の方々、拉致の疑いが排除できない特定失踪者といわれる方々、そして、その御家族は高齢化が進み、その解決は、もはや時間との戦いとなっている。

東京都としては、拉致問題を決して風化させないように、また、一刻も早い解決へ向け、世論の喚起や啓発に引き続き取り組むとともに、各道府県と連携して国への働きかけなどの取組を進めている。

また、その捜査の手がかりとなる情報提供をお願いするため、東京都関連の拉致被害者・特定失踪者ポスター「東京へ、帰せ！」を作成して、周知を図っている。

webページでは、東京都関連の拉致被害者・特定失踪者、拉致問題に対する東京都の主な取組、「北朝鮮による拉致被害者を救出する知事の会」の動向などを掲載している。



東京都総務局人権部webページ より作成

# 11 人権課題「北朝鮮による拉致問題」(中学校 社会科)

## 1 指導事例(第3学年 歴史的分野)

### (1) 単元名 新たな時代の日本と世界

### (2) 単元の目標

冷戦の終結、国際社会との関わりなど現代の歴史的事象に関する関心を高め、国際社会における我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。

### (3) 評価規準

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| ア 社会的事象への<br>関心・意欲・態度 | 冷戦の終結、国際社会における我が国の役割について関心をもち、国際協調の大切さについて意欲的に考えようとしている。                 |
| イ 社会的な<br>思考・判断・表現    | 冷戦の終結による国際社会の変動、我が国における変化などの視点から我が国の未来について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 |
| ウ 資料活用の技能             | 我が国の国際社会との関わり、冷戦の終結などに関する様々な資料から有用な情報を適切に選択して、読み取っている。                   |
| エ 社会的事象についての<br>知識・理解 | 国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。  |

### (4) 単元設定の理由

本単元は、歴史的分野の最終単元であることから、次に学習する公民的分野との関連を図る。歴史的な課題への関心を高めるために、現在も未解決である「北朝鮮による拉致問題」を取り上げ、解決に向けて意欲的に取り組む態度を培うことをねらいとしている。

北朝鮮当局による拉致は、国民に対する人権侵害であり、我が国の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題である。平成14年10月に、拉致被害者5名が帰国したが、北朝鮮当局は、他の被害者について、いまだ問題の解決に向けた具体的行動をとっていない。拉致問題等の解決には、幅広い国民各層及び国際社会の理解と支持が不可欠であり、その関心と認識を深めることが求められている。我が国では、平成18年6月に「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」が制定された。この法律は、国や地方公共団体の責務として、拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題に関する国民世論の啓発を図るよう努めるものとしている。

生徒に国際協調の平和外交の推進について考察させ、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うため、本単元を設定した。

### (5) 人権教育の視点

北朝鮮当局による拉致は国民に対する人権侵害であり、我が国の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題であることを理解させるとともに、人権問題を主体的に解決していこうとする意欲や態度を育む。



## (6) 指導計画（全4時間）

時間	学 習 活 動	人権教育に関わる留意点等
第1時	○ 冷戦の終結、国際協調への動き、地域紛争やその後の世界の変化などについて理解する。	・ 民族や宗教、国家間の対立などから人々の人権が侵害されていることについて理解させる。
第2時（本時）	○ 冷戦後、国際協調への動きの中で、地域紛争を解決する動きが強まったことを振り返る。 ○ 北朝鮮当局による拉致問題を通して、日本や日本人が国際社会の中で果たさなければならない役割について考える。	・ 冷戦終結後も、我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題や、日本人拉致問題などの課題が存在していることに気付かせる。 ・ 日本人が北朝鮮当局により拉致されたことや、いまだに帰国できていない人がいることなどについて理解させる。 ・ 国際社会における様々な問題の解決策について考えさせる。
第3時	○ これからの世界の中で日本や、日本人にはどのようなことが求められているのかを考える。	・ 国際協調のためには、様々な偏見や差別を解消し、平等で公正な社会を作っていかなければならないことを理解させる。

## (7) 本単元の学習指導要領上の位置付けと関連的な指導

- ・ 歴史的分野「(6) 現代の日本と世界 イ 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結」に位置付けられる学習である。
- ・ 公民的分野「(3) 私たちと政治 ア 人権の尊重と日本国憲法の基本原則」の「自由権」及び「(4) 私たちと国際社会の諸課題 ア 世界平和と人類の福祉の増大」と関連付けることができる。
- ・ 特別の教科 道徳の内容項目C「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際貢献」と関連付けることができる。

## (8) 本時の指導（第2時）

### ① 本時の目標

- ・ 北朝鮮の拉致問題は、我が国の主権に関わる問題であると同時に重大な人権侵害であることを理解させ、それらを解決するために様々な人の努力が重ねられていることに気付かせる。
- ・ 北朝鮮による拉致問題について考察することを通して、日本や日本人が国際社会とどのように関わっていくのかを考えさせる。

② 本時の展開

	○学習活動 ・ 予想される生徒の反応	人権教育に関わる留意点等
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冷戦後、国際協調への動きの中で、地域紛争を解決する動きが強まったことを振り返る。</li> <li>○ 拉致問題についての啓発ポスターである「必ず取り戻す！」【資料1】や「東京へ、帰せ！」【資料2】を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北朝鮮による拉致問題についてのポスターで、見たことがある。</li> <li>・ 都内に住んでいた方々や都内で失踪した方々が数多くいる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷戦終結後も、我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題や、日本人拉致問題などの課題が存在していることに気付かせる。</li> <li>・ 北朝鮮に連れて行かれた人たちについてのポスターであることを確認させる。</li> <li>・ 日本と北朝鮮の位置関係を掛け地図等で確認させる。</li> <li>・ 拉致被害者や特定失踪者の人数から拉致問題の深刻さに気付かせる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「北朝鮮による日本人拉致問題」【資料3】から横田めぐみさんの拉致について理解を深め、気付いたことをワークシートに書き、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北朝鮮に一方的に連れて行かれた。</li> <li>・ 40年以上経ってもまだ帰国できていない。</li> <li>・ かけがえのない人生を奪われた。</li> </ul> </li> <li>○ 「必ず取り戻す！『北朝鮮による日本人拉致問題』の解決へ」【資料4】を視聴し、問題の現状と日本政府の動きについて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拉致被害者を取り戻そうという動きが、被害者の家族会から日本全体に広がった。</li> <li>・ 日本政府の取組で平成14年に5人の拉致被害者が帰国した。</li> <li>・ いまだに多くの拉致被害者や失踪した方々の消息はつかめていない。</li> <li>・ 世界中の国々と協力しながら拉致問題を解決しなければならない。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【資料3】の拉致問題等の経緯及び拉致問題Q&amp;Aを基にして、横田めぐみさんの拉致について考えさせる。</li> <li>・ 拉致は、北朝鮮当局によって行われたものであり、北朝鮮に住む一般市民や在日朝鮮人に対する偏見や差別を助長させないよう配慮する。</li> <li>・ 日本政府が拉致問題の解決に取り組んできたことを【資料4】より理解させる。</li> <li>・ 拉致問題は、基本的人権の侵害という国際社会の普遍的問題であり、世界の国々と協力しながら解決する必要があることを理解させる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 拉致問題を解決するために、私たちに何ができるのかを考え、グループで話し合い、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たち自身が拉致問題について正しく理解し、発信していかなければならない。</li> <li>・ 世界の様々な国に協力してもらって、話し合っ解決していかなければならない。</li> <li>・ 世界に協力してもらうためには、世界の苦しんでいる人々のことも、十分理解していく必要がある。</li> </ul> </li> <li>○ 国際社会の中にある様々な問題の解決策について、考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拉致問題等の解決には、幅広い国民層及び国際社会の理解が不可欠であることに気付かせる。</li> <li>・ 本時を振り返り、次時や次の公民的分野の学習に向けて課題意識をもつことができるようにする。</li> </ul>

## (9) 本時の学習を通じての生徒の感想



現在も北朝鮮の地で救出を待っている拉致被害者のためにも、引き続き拉致問題の解決を訴えていかなければならないと思いました。

拉致は人権の侵害なので、あってはならないことだと思います。この事件について、まずは自分を含めた日本国民がしっかりと理解しなければならないと思います。



北朝鮮ともっと対話したり、他国にも日本の現状を話したりすることが大切だと思います。拉致問題を他国に理解してもらい、協力してもらうことも問題の解決につながると思います。

## (10) 本時に用いた資料

### 〔資料1〕「必ず取り戻す！」政府 拉致問題対策本部

北朝鮮による拉致問題に対する政府の取組の一つとして制作された拉致問題啓発ポスターである。写真は1977年1月新潟市にて撮影されたもので、横田めぐみさんは当時12歳。ポスターには母横田早紀江さんの直筆の思いがこめられている。

< Webページ >

<https://www.rachi.go.jp/jp/shisei/keihatsu/index.html>



### 〔資料2〕「東京へ、帰せ！」東京都 総務局 人権部

北朝鮮による拉致問題を風化させず、世論の喚起や啓発に取り組むために、東京都 総務局が制作したポスターである。政府が北朝鮮による拉致被害者として認定している方から拉致された可能性のある東京都関連特定失踪者まで50名の顔写真が掲載されている。

< Webページ >

<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/10jinken/rati/>



### 〔資料3〕「北朝鮮による日本人拉致問題－1日も早い帰国実現に向けて！－」政府 拉致問題対策本部

総理大臣を本部長、拉致問題担当大臣、内閣官房長官及び外務大臣を副本部長とし、すべての国務大臣を構成員とする拉致問題対策本部により、平成30年に制作された拉致問題啓発資料である。拉致問題の概要や動向、解決に向けての政府の取組などについて分かりやすくまとめている。

< Webページ >

<https://www.rachi.go.jp/jp/shisei/keihatsu/index.html>



### 〔資料4〕「必ず取り戻す！『北朝鮮による日本人拉致問題』の解決へ」政府インターネットテレビ

平成26年5月に行われた日朝政府間協議を受け、北朝鮮が拉致被害者等全ての日本人に関する全面的な調査の実施を約束したことや拉致問題の現状、これまでの経緯等についてまとめられた動画である。

< Webページ >

<https://nettv.gov-online.go.jp/>

